

1 年次レポートの構成等

あいち健康福祉ビジョン（平成23年6月策定）

本県健康福祉行政の進むべき方向性と主要な取組を示したもの

- ・ 基本理念 ともに支えあう安心・健やかで幸せなあいち
～『あいち健幸（けんこう）社会』の実現
- ・ 計画期間 平成23年度～27年度
- ・ 分野 福祉（高齢者、子ども、障害のある人）
保健・医療（健康、医療）
地域

年次レポートの構成

（1）特集（p3～18）

毎年度テーマを設け、取組状況を検証する。

今年度のテーマは、「児童虐待防止対策」と「見守りの必要な高齢者への支援」

（2）新たな課題への対応（p19～26）

制度改正や社会状況の変化に伴う新たな課題が生じた場合に、取組の方向性を明らかにする。今年度は、東日本大震災を踏まえ、「災害医療体制の再構築」について、考え方を示す。

（3）「ビジョンの主要な目標」の進捗状況（p27～38）

ビジョンに掲げた「主要な目標（38項目）」の進捗状況を把握・評価する。

2 新たな課題への対応～災害医療の再構築～

災害拠点病院の機能強化

【東日本大震災における主な課題】

- ・ 災害拠点病院のほとんどで一部損壊などの被害が発生
- ・ 自家発電用の備蓄燃料、食料、医薬品等の物資の不足
- ・ 建物等の被害や患者の受入れ、ライフラインの状況等に関する情報発信の遅れ

【今後の方向性】

新たに示された災害拠点病院の具体的な要件を踏まえ、耐震化や要件を具備した自家発電施設の設置を推進するなど、早急に施設・設備の充実を図る。

災害医療コーディネート体制の整備

【東日本大震災における主な課題】

- ・ DMAT、医療チームの受入れや派遣調整体制の不備
- ・ DMATから医療チームへの引き継ぎ不足

【今後の方向性】

原則、二次医療圏単位で、医療チーム等の配置や患者の搬送、必要な医薬品の調達などについてコーディネート機能を発揮するため、保健所を中心に災害拠点病院、関係機関が集まり情報交換を行う場（地域災害医療対策会議（仮称））を設置する体制を整備する。

二次医療圏ごとの医療提供体制を支援するとともに、圏域を超えて全県的にコーディネートする県レベルでの災害医療調整本部（仮称）を設置する体制を整備する。

中長期における対応

【東日本大震災における主な課題】

- ・ 慢性疾患等を抱える被災者への継続的な医療提供体制の確保が不十分

【今後の方向性】

慢性疾患患者等の方々が継続的に必要な医療を受けることのできる体制や、在宅における要援護者の把握、また避難所等における被災者の方々の健康管理を確保する体制を整備する。